

NEWS Letter

Institute of Social Safety Science

地域安全学会ニューズレター No. 99 —目次—

1. 2017年度地域安全学会大会（総会・研究発表会（春季）
のご案内 1
2. 地域安全学会研究発表会（春季）「優秀発表賞」募集
のお知らせ 3
3. 第41回（2017年度）研究発表会（秋季）査読論文の募集
と投稿方法 4
4. 地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石 6
5. 2016年度地域安全学会技術賞審査報告 10
6. 2016年度研究運営委員会活動報告 11
7. 寄稿
ダークツーリズムという問い 井出 明（追手門学院大学） 13
8. 地域安全学会からのお知らせ
(1) 地域安全学 夏の学校 2017 —基礎から学ぶ防災・減災— 16



地域安全学会ニューズレター
ISSS News Letter

No. 99
2017. 4

1. 2017 年度地域安全学会大会(総会・研究発表会(春季))のご案内

-
- (1) 第 40 回 (2017 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季)
 - (2) 2017 年度地域安全学会総会
 - (3) 公開シンポジウム
-

沖縄県石垣市で 2017 年度地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度も総会にあわせて、第 40 回 (2017 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季) <一般論文発表会>を行いますので積極的な参加をお願いします。

(1) 第 40 回 (2017 年度) 地域安全学会研究発表会 (春季) <一般論文発表会>

場所：石垣市商工会館・商工会ホール (石垣市浜崎町 1-1-4)
石垣市 IT 事業支援センター研修室 (石垣市新栄町 6-18)
石垣市立図書館 (石垣市浜崎町 1-1)

※セッションによって会場が異なります。プログラムおよび地図 (次ページ) をご確認ください。

日時：2017 年 6 月 9 日 (金) 13:30~16:30 一般参加可能

※登録申し込みおよび論文投稿期限についてはニューズレターNo. 98 (2017 年 2 月) もご確認ください。

※プログラムは地域安全学会ホームページに掲載します。

※上記の時間は一般論文発表数により多少の変更があるかもしれませんので、時間に余裕を持ってお越し下さい。

(2) 2017 年度地域安全学会総会

場所：石垣市商工会館・商工会ホール (石垣市浜崎町 1-1-4)
日時：2017 年 6 月 9 日 (金) 16:45~18:15

懇親会：

場所：南の美ら花ホテルミヤヒラ 梯梧 (デイゴ) の間 (石垣市 美崎町 4-9)
日時：2017 年 6 月 9 日 (金) 19:00~21:00
会費 6,500 円 ※事前申し込み制です。

(3) 公開シンポジウム

主 催：一般社団法人地域安全学会
共 催：石垣市
日 時：2017 年 6 月 10 日 (土) 09:30~11:30
場 所：石垣市民会館 中ホール (石垣市浜崎町 1 丁目 1-2)

(4) 現地見学会「八重山大津波の歴史をめぐる」

日時：2017 年 6 月 10 日 (土) 12:00~18:00
(解散は石垣空港 (18 時))
参加費：4,500 円 (バス代, ガイド代, お弁当代)
※事前申し込み制 (先着 90 名) です。

(要事前申込み) chian-haru@iss. info へ氏名, 所属, 携帯電話番号を記載し, 以下のフォームに記載の上申込みください. 締め切り: 5/12(金). 現地見学会は先着順になりますのでお早めに申し込みをお願いいたします.

---申し込みフォーム---

メールの件名は「春季大会参加申し込み」として下さい.

- 氏名
- 所属
- メールアドレス
- 携帯電話番号
- 懇親会 (6月9日) に「参加」する ※参加予定に応じて削除してください
- 現地見学会に (6月10日) に「参加」する ※参加予定に応じて削除してください

会場配置図 (第2会場, 第3会場へは, 第1会場から徒歩5分)



2. 地域安全学会研究発表会（春季）「優秀発表賞」募集のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる平成 29年6月に実施される第40回（2017年度）地域安全学会研究発表会(春季)一般論文については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようにお願いします。なお、応募者は当日の懇親会に出席の上、選考結果発表会に臨むものとしています。

■「優秀発表賞」応募登録の方法 （昨年から変更いたしましたのでご注意ください）

- ・第40回（2017年度）地域安全学会研究発表会（春季）一般論文募集の「（1）投稿要領」に従い、Eメール登録時点で書式に則り、「優秀発表賞」の審査希望の有無をご回答ください。
- ・審査を希望されない方も、必ず希望欄に「無」とご記入しご回答ください。

■審査要領改正のお知らせ （昨年から既に改正・適用されておりますが周知のため再度記述させていただきます）

- ・「地域安全学会優秀発表賞」審査要領の一部改正が、平成28年3月26日の理事会において提案・承認されましたので、ご注意ください。改正点は、それまでは授賞対象者は「・・・研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者を対象とする。・・・代理発表者は対象外とする。」となっておりましたが、それを以下のように改正いたしました。

1. 授賞対象者

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

3. 第41回(2017年度)研究発表会(秋季)査読論文(地域安全学会論文集 No. 31)の募集と投稿方法

2017年4月
地域安全学会 学術委員会

「論文査読システム」による電子申込・電子投稿となっております。2016年度からシステムが変更されていますのでご注意ください。2017年5月12日(金)正午12:00までの期間内に、地域安全学会ホームページ(www.issss.info)の「論文査読システム」リンクを通じて、論文申込と査読用論文原稿を同時に投稿して下さい。

査読は、カラー原稿を前提として行います。なお、再録、印刷される冊子体論文集はすべて白黒印刷とします。また、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承下さい。

また、平成21年度より審査付の論文集(電子ジャーナル)を発行しております。これに伴い、第二次審査において採用とならなかった論文のうち、一部の修正により採用となる可能性があるものと認められるものは、著者が希望すれば、再度修正・審査を行い、審査の結果、採用となれば地域安全学会論文集 No. 32(電子ジャーナル)(平成30年3月発行予定)に掲載します。この場合、修正は1回のみとし執筆要領は査読論文の執筆要領に準拠します。

会員各位の積極的な査読論文の投稿をお願いします。

1. 日程等

- (1) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の投稿期限(論文査読システム)
平成29年5月12日(金)12:00(正午, 時間厳守)
- (2) 第一次審査結果の通知
平成29年7月下旬
- (3) 修正原稿の提出期限(電子メール投稿)
平成29年9月1日(金)12:00(正午, 時間厳守)
- (4) 「地域安全学会論文集 No. 31」への登載可否(第二次審査結果)の通知
平成29年9月下旬
- (5) 登載決定後の最終原稿の提出期限
①PDF ファイルの電子メール投稿
平成29年10月6日(金)12:00(正午, 時間厳守)
②白黒原稿の郵送
平成29年10月6日(金) (消印有効)
- (6) 地域安全学会研究発表会での登載可の論文の発表(論文奨励賞の審査を兼ねる)
月日:平成29年11月10日(金)~11日(土)
場所:静岡県地震防災センター
- (7) 論文賞・年間優秀論文賞・論文奨励賞授与式(次年度総会に予定)

2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1万円/編
①期 限:平成29年5月17日(水)までに、②宛てに振り込んで下さい。
②振込先: りそな銀行 市ヶ谷支店
口座名:一般社団法人地域安全学会 査読論文口座
口座種別:普通口座
口座番号:1745807
振込者名:受付番号+筆頭著者名 (例:2017-000 チイキタロウ)
③その他:査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。
<投稿論文に形式上の不備があり、実際の査読が実施されない場合も返金いたしません>

3. 登載料の納入

- (1) 登載料(CD-ROM版論文集1枚+冊子体論文集1冊を含む)
6ページは2万円/編, 10ページを限度とする偶数ページの増頁については, 5千円/2頁。
- (2) 登載料の納入方法
平成29年10月10日(火)までに, 上記2.(1)-②の振込先に振込んで下さい。

4. その他の注意事項

- (1) 申込期間の締切りに際して投稿の集中が見込まれます。予期せぬ事態によりサーバーがダウンし、受付ができなくなる恐れも出てきます。締切りに際しての投稿は極力避けていただくようお願いいたします。
- (2) 論文申込と査読用論文原稿の電子投稿の概略（詳細は電子投稿システムの指示に従って入力して下さい）＜2016年度からシステムが変更になっています＞
 - ・申込者の氏名、所属、連絡先、その他の事項を入力する。
 - ・論文題目、著者、所属、連絡先、その他の事項及び論文概要(250文字程度)を入力する。
 - ・原稿ファイル（PDF形式のみ）を指定し、送信する。
- (3) 執筆要領テンプレートの入手方法
「論文集の執筆要領」は、電子ファイル「論文集の執筆要領と和文原稿作成例」(テンプレート)が、地域安全学会ホームページ (<http://www.isss.info>) にありますので、必ず最新のテンプレートをご利用下さい。なお、審査の公正を高めるため、査読用論文原稿には、氏名、所属および謝辞を記載しないこととしておりますので、ご注意下さい。詳細につきましては執筆要領をご参照下さい。
- (4) 申込だけで原稿が未提出のもの、査読料の払い込みのないもの、投稿論文が執筆要領に準じていないもの、および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (5) 「冊子体論文集」は、最終原稿ファイル (PDF 形式) の白黒出力を掲載します。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。しかし、「冊子体論文集」に添付される「CD-ROM 版論文集」には、カラー図版に関する制限はありません。

会員の皆様へ 論文査読のご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては、学術委員会にて論文 1 編あたり 2 名の査読者を、原則として会員内より選出し、査読依頼を e-mail で送信いたします。地域安全学会の会員各位におかれましては、学術委員会より査読依頼が届きましたら、ご多用中のことと存じますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

4. 地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ 2017 in 釜石

主催：地域安全学会，共催：釜石市／東北大学災害科学国際研究所

2011年3月11日に発生した震災により東北地方から関東地方に至る多くの沿岸部が被災し、各地で復興に関する取り組みが進められています。わが国に甚大な影響を与えている東日本大震災から、どのような教訓を得るのか。研究を通じて、今後の復興に対してどのような知見を与えることができるのか。地域安全学会は、東日本大震災を契機とした将来的な防災と復興について議論を深めていくことを目的として、2012年より「東日本大震災連続ワークショップ」を開催してきました。被災から復興までには長い年月がかかります。時間の経過とともに異なる復興の各時点において、皆様から持ち寄っていただいた話題を題材とし、ワークショップの中で情報共有と今後の地域防災に向けての知見を得たいと考えています。それらを数年にわたり継続しながら、様々な被災地の方々との交流を通して、実施していきたいという趣旨で企画を進めて参りました。

東日本大震災連続ワークショップは、これまでにいわき市、大船渡市、宮古市、気仙沼市、石巻市で開催されてきました。第6回目となる2017年は夏に釜石市を舞台として開催されます。

今回のワークショップでは、例年どおり、震災から6年が経過した時点における皆様からの研究成果を持ち寄っていただき、テーマに即した議論を進めるとともに、釜石市内の被災地と復興状況についての見学会を予定しています。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

■日程：2017年8月5日（土）～6日（日）

■会場：釜石情報交流センター（釜石市大町一丁目1番地10号 0193-27-8751）

<http://en-trance.jp/jkc>

釜石駅から徒歩12分 ※お車でお越しの場合は最寄りの有料駐車場をご利用ください。

8月5日（土）

※花巻空港、新花巻駅から会場までの送迎バスを運行予定（運賃2000円）

10:00 いわて花巻空港 送迎バス出発

10:15 新花巻駅 送迎バス出発

12:00 頃 送迎バス会場着予定（会場周辺に食事処あります）

12:30～13:30：受付

13:30～17:30：開会式／講演会（釜石市より 2 名）／研究会

18:00～20:00：懇親会

8 月 6 日（日）

9:00～15:00：見学会（途中，昼食あり）

～新花巻駅、花巻空港へ

（※17 時以降の新幹線・航空便に間に合うよう運航予定）

■発表登録

次頁「論文募集のお知らせ」をご確認ください。

■研究発表会

参加費 無料

■懇親会

市内会場にて調整中

■見学会

バス移動による釜石市内 復興事業区画を見学予定

■宿泊：各自確保をお願いいたします。

会場近くのホテル：ホテルサンルート釜石、釜石ベイシティホテル、ホテルルートイン釜石等

釜石市内宿泊先一覧：

<http://kamaishi-kankou.sakura.ne.jp/wp/%E6%B3%8A%E3%81%BE%E3%82%8B/>

■問合わせ：

東北大学災害科学国際研究所 杉安和也／寅屋敷哲也／佐藤翔輔

Email: sugiyasu[*]irides.tohoku.ac.jp ※[*]：半角アットマーク

※送迎バス、懇親会、見学会への各種事前申し込み、参加費用等の詳細情報につきましては追って HP 等で案内します。

地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ in 釜石 2017 論文募集のお知らせ

東日本大震災特別委員会

2017年8月5日(土)～6日(日)に岩手県釜石市において地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ in 釜石 2017 を開催致します。つきましては本ワークショップでの発表登録を下記要領にて募集いたします。奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

■応募概要

1) 開催日時・場所

・日時：2017年8月5日(土) 13:30-17:30

開会式／講演会／研究会(下記①～⑧のテーマ別分科会)／懇親会

・会場：釜石情報交流センター <http://en-trance.jp/jkc>

(岩手県釜石市大町一丁目1番地10号 0193-27-8751)

8月6日(日)見学会 9:00-15:00

2) アブストラクト提出・登録

・締切：2017年5月22日(月) 17時

・登録はEメールによって行ってください。宛先は 311EQ-Tsunami@iss.info

・登録内容書式

件名 「東日本大震災連続ワークショップ登録」

1 行目 テーマ別番号(下記①～⑧からひとつ選択)

2 行目 論文題目

3 行目 筆頭著者氏名

4 行目 筆頭著者所属

5 行目 筆頭著者連絡先住所(郵便番号も)

6 行目 筆頭著者Eメールアドレス

7 行目 筆頭著者電話番号

8 行目 筆頭著者ファックス番号

9 行目 連名著者がいない場合はアブストラクト(論文概要)(250字以内)、いる場合はその氏名、所属を1行に1名ずつ記入、改行後、アブストラクト(論文概要)(250字以内)。

テーマ別番号：①組織の対応、②避難所、応急仮設住宅、恒久住宅、③復旧・復興、④経済被害、⑤人的被害、⑥物的被害、⑦防災教育、⑧社会調査・エスノグラフィ

注 1) ワークショップにおいて発表する著者氏名に○をつけてください。

注 2) ワークショップの趣旨に鑑み、投稿論文は東日本大震災に関連する内容としてください。

登録完了後アブストラクト審査を行い、採択の可否を事務局よりお知らせします。同時に受理論文著者には受付番号を事務局よりお知らせします。

3) 論文原稿の送付

・送付期限：2017年6月30日（金）17時

・論文形式：「研究発表会（春季）一般論文」の要領に準ずるものとし、当学会のホームページ（www.issn.info）に掲載の一般論文用 MS-Word テンプレートをダウンロードの上、利用してください（査読論文用テンプレートではありませんのでご注意ください）。

・A4 版、4 ページまたは 6 ページ、PDF ファイルに変換したものを投稿してください。投稿された PDF ファイルを白黒出力し印刷します。

4) 投稿料の納入

・投稿料：2,500 円/ページ（4 ページ：10,000 円、6 ページ：15,000 円）

・投稿料の納入方法

① 期限：2017年6月30日（金）までに②宛てに振り込んでください。

② 振込先：

銀行：りそな銀行 市ヶ谷支店（店番号：725）

口座名：地域安全学会 ワークショップ口座

口座種別・番号：普通預金 1745823

振込者名：受付番号+筆頭著者氏名

③ その他：振込の際には、登録受理メールにて返信された受付番号を筆頭著者氏名の前に入力してください。

④ 注意：査読論文や春季研究発表会一般論文などの振込口座とは異なりますのでご注意ください。

■研究会・現地への行程等詳細については、追って HP 等で案内します。

5. 2016年度地域安全学会技術賞審査報告

地域安全学会 表彰委員会

本年度で10回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し、3件の応募があり、2017年3月に下記の審査要領に基づき審査が行われました。審査委員9人による厳正な審査の結果、以下の1件に授賞することを決定いたしました。ここに報告させていただきます。

- ・山田哲也氏（三井住友建設株式会社）「地震時建物変位計測システム」

■「地域安全学会技術賞」の審査要領（抜粋）

1. 授賞対象者

「地域安全学会技術賞 候補業績募集要領」に基づき応募された「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象とする。

2. 審査方法

- (1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長から構成される技術賞審査会が審査を行う。
- (2) 表彰委員会委員長は、技術賞候補の応募期日後に三分の二以上の構成員を召集し、技術賞審査会を開催する。
- (3) 第一次技術賞審査会では、応募状況の報告、応募書類の形式審査、審査方法の確認、および技術賞選定に関する審議と決定を行う。
- (4) 審査は、当該技術の①実績、②有用性・実用性、③革新性・新規性、④一般性・汎用性、および⑤将来性・展開性を考慮した以下の手順に従い、行われる。
- (5) 各審査員は評価シートを用いて、各々の候補技術を上記①から⑤の評価項目に基づき総合的に評価する。そして、地域安全学会技術賞にふさわしい技術を選定する。
- (6) 表彰委員は、すべての審査員により提出された評価シートに基づき、技術賞受賞候補を選定する。
- (7) 第二次技術賞審査会で技術賞受賞候補について審議を行い、理事会の承認のうえ、受賞技術を決定する。
- (8) 審査の実施細目は別途定める。

6. 研究運営委員会の2016年度活動報告

研究運営委員会

委員長 大原美保（土木研究所）

研究運営委員会では、地域社会の安全性の向上に関する学術・文化・社会の進歩発達に寄与することを目的として、学会が自主的に実施する研究（企画研究）と、外部からの委託申し出によって行う研究・調査（受託研究）の運営を行っています。2016年度においては、企画研究に関する2つの小委員会が活動を行いました。以下に、小委員会の今年度の活動概要と次年度の活動計画について報告します。

■企画研究小委員会

(1) 災害時食料供給研究小委員会(2016～2017年度)

主査：守茂昭（一般財団法人 都市防災研究所）

流通業の努力により流通在庫が圧縮された最近の小売業界であるが、それは緊急時に市中の物資が瞬間的に払底する危険があることも意味していた。当研究会は災害時のある時期に、場所的・時間的な不運が重なれば、物資の逼迫が起きることを示し、その対応法を提案することを目指している。

平成28年度は3回の研究会を実施し、「激甚災害発生時における都道府県間物流の寸断に関する影響評価について」、8月の気仙沼における学会ワークショップで発表を行った。

全国貨物純流動調査（物流センサス）「表IV-2 都道府県間流動量（品目別）－重量－」で考察する限り、食の面で首都圏を支える動脈は、北海道から東北を経て茨城を経由する生産・物流の流れと、新潟から栃木・群馬を経由する生産・物流の流れがあり、この2つの動脈が生きていれば、太平洋岸が被災をしても最悪のシナリオは避けられるようにも見える。しかし、逆に言えば来るべき東南海・南海トラフ地震において、もしこれらの動脈も重度のダメージを被るなら、被災飢餓は現実に発生すると言える。熊本地震の物資逼迫状況になぞらえて考えるなら、首都圏人口の3割が食料物資を必要とした時に、供給逼迫と呼んで良い状態がそこに生まれると考えるべきであろう。その状態は、餓死の危険の迫る逼迫ではないにせよ、一種の飢餓状態とは呼べるものであり、対応に追われる人々は非常な焦燥感に駆られて対応に当たることになる。Webアンケートで見ると、市民の備蓄食料は平均的に3日程度であり、流通が途絶えた状態で被災対応が長引けば、飢えに苦しむ地域が出るのが十分に予想される。

平成29年度は、これらの活動を踏まえ、首都圏直下地震、東南海・南海トラフ地震において展開する可能性のある食糧逼迫のドラマを、業務市街地を中心にモニターする予定である。

(文責：守茂昭 主査)

(3) 社会に役立つ防災情報システム研究小委員会(第2期)(2015～2017年度)

主査：牧紀男（京都大学）

本研究委員会は「電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ」と共同で、東日本大震災の長期的な復興、並びに次なる災害を想定し、若手研究者を中心とした人材のネットワークを構築すると共に、様々な情報システム技術を連携・融合させることで、情報混乱期における現場対応を支援する防災情報システムのあり方について研究を進めている。

本年度は、地域安全学会・電子情報通信学会共催で研究会を1回開催した。「減災情報システム第6回合同研究会」を2017年3月21日 13:00-17:00 愛知工業大学八草キャンパス 12号館3階 301,302に

において開催し、7編の研究発表が行われた。研究会の発表要旨は、以下の URL より参照可能である。

URL : <https://sites.google.com/site/drisjw/home>

来年度も1もしくは2回程度「減災情報システム合同研究会」を実施する計画である。本研究会への地域安全学会側の参加者が少なく、来年度は地域安全学会会員の本研究会への参加者を増やしたいと考える。

(文責：牧紀男 主査)

以上

7. 寄稿

ダークツーリズムという問い

追手門学院大学 教授 井出 明

1. 地域安全学会、および観光学との出会い

私が地域安全学会と関わりを持つようになって、12-13年程度になる。自らのアカデミックバックグラウンドを振り返ると、学部で経済学に触れ、修士で憲法を学び、博士は情報学研究科に進むことになった。当時の京大の位置関係で考えると、9年かかって時計台のまわりを一周したことになる。

京大の情報学研究科は9割が理工系の学生で占められており、私の博士論文の中間報告会においても、居並ぶお歴々は工学系の先生方が非常に多かった。私は、人権や表現の自由の観点から博士論文の構想を話してみたのだが、当時助教授をされていたロボット工学の著名な先生が「実験もやっていないし、データを分析していないじゃないか。」と慥然として批判をされた。私の研究テーマではこういった指摘がなされる事自体がちょっと不思議だったので、どうしたものかと悩んでいたところ、当時防災研究所にいらっしゃった林春男先生が、私と何の接点もなかったにも関わらず、若手助教授に人文・社会系の学問の価値や方法論を教示してくださり、思わぬ助け舟に乗ることとなった。

その後、林先生には博士論文の副査をお願いするとともに、本学会の入会を勧められ、防災や復興の研究のお手伝いをするようになった。上記の経緯にあるとおり、私は当初は法学的な立場から、この学会に加わったことになる。

さらにその後、大学に職を得て、無事学位も取得し、今後の研究の方向性について考えてみたのだが、研究室中心の活動となる法学系の社会情報学よりも、フィールドベースの領域に専門を移したいと思うようになった。思案しているうちに、趣味の旅行をもう少し学問的に扱ってみたいという気持ちが芽生えるとともに、当時、小泉政権下で政府が猛烈に観光を推し始めたこともあり、徐々に観光系学会に論文を投稿するようになった。

2. ダークツーリズムとの出会い

しかしながら、観光研究をしてみると言っても、あまり華やかな場所には興味がわかず、例えば、北海道に行ってもアイヌの差別史、囚人の強制労働、樺太からの引き揚げなど、地域の影についての関心に基づいて歩くことが元々多かった。自分なりに観光研究のブレイクスルーを探していたところ、2011年の8月に、小樽商科大学の百周年記念の行事で、これからの北海道観光について講演させて頂く機会を得た。そこで今後の北海道観光の進むべき方向性として、上記に述べた近代の影を観光対象にしてはどうかという発表をしたところ、ニュージーランドからいらっしゃったある先生から、「あなたのやっていることはDark Tourism と呼ばれ、現在ヨーロッパで盛んに研究されている」というコメントをいただいた。これが、私とダークツーリズムの出会いであるが、ネットや本でこの新しい観光概念について調査してみると、非常にポテンシャルのある社会分析の方法であることが

わかってきた。

ダークツーリズムは1990年代のイギリスで研究が始まった概念で、戦争や災害のあとを始めとする悲劇の記憶を訪ね歩く旅を指す。この研究が始まった当時は、ダークツーリズムの例として、戦争や災害がしばしば挙げられたが、現在ではハンセン病等の感染症、刑務所等の行刑施設、民族問題やディアスポラなどもダークツーリズムの対象として扱われるようになってきている。

筆者は、2012年に、交通系の雑誌である『運輸と経済』に、東日本大震災の観光面での復興に関して、ダークツーリズムという方法論があることを示したところ、観光学のメインストリームからは拒絶を受ける一方で、福島第一原発の事故からの復興を観光で展開しようとしていた東浩紀氏とコラボレーションを果たすことになり、この時以降、ダークツーリズムという言葉が爆発的に広がっていった。

3. 復興や防災研究者にとってのダークツーリズム

このように、日本では東氏が提唱した「福島第一原発観光地化計画」のプロジェクトに連動してダークツーリズムが広がったが、そうであるが故に、本来の意味である「悲劇の記憶をめぐる旅」と「被災地に行くこと」が混同されて捉えられるようになってしまった。実は、被災地に行くことだけがダークツーリズムでもなければ、逆に被災地に行くことが全てダークツーリズムというわけでもない。

ダークツーリズムは人類の悲しみの記憶に接近するという方法論を取るため、単に被災地に赴いて消費を楽しむ旅は、通常ダークツーリズムとは言わない。それどころか、死者を悼むために現地に行くことが、被災地の「明るく元気な復興」に水を差すこともあるわけで、ダークツーリズムと復興観光が矛盾するシーンも当然のことながら出て来る。

この研究テーマを掘り下げるようになってまだ5年程度であるが、欧米型のダークツーリズムはそのままでは、日本には導入しにくいという確信も強めつつある。欧米においては、当然の理（ことわり）として、地域の輝かしい記憶だけでなくネガティブな情報も記録される。その背景には様々な理由が考えられるが、筆者の立場からは、欧米の宗教観が「光と影」「天使と悪魔」「天国と地獄」と言った二元論的世界観にもとづいているため、麗しくない記憶についても必然的に残されることになることを説明している。

実際、アウシュビッツの展示を見て愕然とするのは、単にユダヤ人への迫害だけではなく、あれだけ効率的にナチスがユダヤ人を支配した背景に、ユダヤ人内部での裏切りがあったことが明確に展示されている点である。自分たちにとって都合の悪い情報でもあえて承継する例としては、地域安全学会が関係した第4回都市防災会議の開催地であったウエリントンの博物館において、マオリへの迫害を明確に反省したニュージーランドの歴史展示なども強烈な印象を放っていた。またアメリカの多くの資料館・博物館では、黒人をはじめとする有色人種への差別やネイティブアメリカンを西方に追い詰めていったことへの悔恨が読み取れる。ダークツーリズムはこうした、自国民や地元民にとっても都合の悪いストーリーを、来訪者が訪ねるといった構造を持つことが特徴である。その結果、旅人があたかもメディアのようになり、重要な教訓が次世代および外界に伝えられることにつながっていくともいえよう。

さて、防災や復興研究の外縁部にいるダークツーリストの私からは、日本の災害復興博物館が美しい郷土愛に溢れた展示で埋め尽くされていることは、少々違和感もある。例えば、奥尻島の津波館には、被害の状況と輝かしい復興過程は展示されているものの、当時の町長の競争入札妨害に関するコンテンツはまったくない。しかし、被災地には公金が大量に流れ込み、その管理や使用にあたってはどのようなことに気を配らないといけな

という情報は、潜在的に日本国民全員への有益な警鐘となりうる。仮に、こうしたネガティブ情報が発信され、受け継がれていれば、東日本大震災後の公金使用にまつわる不祥事はあれほど頻発しなかったかもしれない。

防災の研究者や復興に携わる人々は地域の人々と距離が近く、良い活動をするためには地域との意思疎通が重要であるが、それがために地域のネガティブ情報を発信することが出来ないというジレンマがあるのではないだろうか。その間隙を埋めるための方法論として、ダークツーリズムは非常に有効に機能する。

また、災害研究のために調査活動をする学者や実務家は、いろいろな場所に出張しても、災害が直接に関連する場所しかみないという傾向があるが、これは大変にもったいないことではないだろうか。ダークツーリズムについても、戦争と災害では分けて考えるべきだという意見があるものの、これではダークツーリズムの持つ社会分析手段としての有用性を逆に狭めてしまいかねない。例えば、阪神・淡路大震災の際に甚大な被害が生じた長田の街は、木造住宅が密集していたが、それは戦前より朝鮮半島から仕事を求めて集まってきた人々が肩を寄せあって集住した結果、災害に弱い居住空間が生まれてしまったという経緯がある。他の例としては、現在、高度情報化社会を迎え、災害発生時の噂やデマへの対応も危惧されるところであるが、関東大震災の際の朝鮮人虐殺を調査したとしても、それだけでは不十分であって、元から内在する差別意識が、震災というインパクトで顕になったと考えたほうが適切であろう。

このように、災害がもたらす負の影響は、災害自体が生み出すというよりも、元からその社会が有していた脆弱性が、災害によって明らかになったと捉えたほうが説明のつくケースがままある。それ故、防災や復興に関わる方々は、悲劇の記憶から地域にアプローチをするダークツーリズムの方法論を意識していただき、出張に際しては災害とは直接関係がないかもしれない地域のネガティブな情報にもう少し積極的に触れていただいてもよいかもしれない。

地域安全学会に観光の専門家として席をおかせていただく身としては、復興観光とは別の次元で、ダークツーリズムが地域安全学に携わる人々に有益な示唆を与えるのではないかと期待している。

8. 地域安全学会からのお知らせ

(1) 地域安全学 夏の学校 2017 ー基礎から学ぶ防災・減災ー

(安全・安心若手研究会 第4回交流会)

1. 趣旨

地域安全学は、災害、防災・減災、復旧・復興、犯罪・防犯、事故、危機管理など、概念や分析手法が多岐にわたります。地域安全学を学ぼうとする初学者にとっては、「どこから手を付ければいいのか」悩ましいところがあります。

「地域安全学 夏の学校」は、大学生・大学院生を主な対象として、一流の研究者が講義や演習を行うセミナーとして開催するものです。複数の先生方を講師としてお招きし、各分野の基礎を「分かりやすく」講義していただきます。

初回の2016年度は、8月に仙台市（東北大学災害科学国際研究所）で開催しました。第2回目の2017年度は東京で開催し、参加者間の交流企画と座学形式の講義を行います。今後も、毎年講師を変更して開催するとともに、演習や合宿の形式を取り入れていく予定です。

これから研究を始めようとする方や、基礎からしっかりと見直したい方に大変おすすめです。大学生・大学院生に限らず、実務者・研究者の方々も参加歓迎です。この機会に是非、ご参加ください。

なお、本事業は、文部科学省「リスクコミュニケーションのモデル形成事業」の一環として実施するものです。

2. 日時・会場

日時：2017年8月7日（月）10:00～17:00

会場：同志社大学東京オフィス（東京都中央区京橋2丁目7番19号京橋イーストビル3階）

※JR「東京」駅八重洲南口から徒歩6分

※東京メトロ銀座線「京橋」駅6番出口から徒歩1分

アクセス：<http://tokyo-office.doshisha.ac.jp/access/map.html>

3. プログラム

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| 10:00～10:10 | 開会 |
| 10:10～11:20 | 東京大学 関谷直也 特任准教授：「災害心理」の講義（70分） |
| 11:30～13:00 | 参加者間の交流企画①（1分プレゼン）
昼食 ※軽食をご用意します。 |
| 13:00～14:10 | 常葉大学 田中聡 教授：「行政対応」の講義（70分） |
| 14:20～15:00 | 参加者間の交流企画②（グループワーク） |
| 15:10～16:20 | 東京大学 加藤孝明 准教授：「災害復興」の講義（70分） |
| 16:20～16:50 | 参加者間の交流企画③（ポスター発表）※希望者のみ |
| 16:50～17:00 | 閉会 ※終了後、会場近郊で懇親会を開催します。 |

<ポスター発表の概要>

- ・ポスターのサイズは最大A2（A3×2枚、A4×4枚でも可）。
- ・ポスターの印刷・持参は各自でお願いいたします。
- ・優れた発表には「地域安全学 夏の学校 2017 優秀発表賞」を授与します。

4. 申し込み方法

申し込み期限：2017年7月20日（木）12:00

宛先：anzenanshin.community[*]gmail.com ※[*]を@（アットマーク）にかえて

メールタイトル：夏の学校2017申込み

送付内容：①お名前，②ご所属，③職位または学年，④メールアドレス，⑤携帯電話番号
（緊急連絡先として），⑥ポスター発表の希望の有無，⑦懇親会の出欠

電話等でのお問合せ：022-752-2158（担当：寅屋敷哲也（東北大学災害科学国際研究所））

5. 参加費

無料

※本企画は，地域安全学会より助成を受けています。

世話係：松川杏寧，佐藤翔輔，杉安和也，藤生慎，河本尋子，寅屋敷哲也



地域安全学会ニューズレター
第 99 号 2017 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局
〒102-0085 東京都千代田区六番町 11-3
エクサス六番町 401
株式会社サイエンスクラフト内
電話・FAX : 03-3261-6199
e-mail : iss2008@iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) をご覧ください。